

*** 今日の健康 (9月) ***

＜ 新型コロナワクチンとインフルエンザワクチンの接種間隔 ＞

新型コロナワクチンとインフルエンザワクチンの接種間隔の基本的事項として、ファイザー社やモデルナ社のmRNA ワクチンは、実績がないので接種前後 2 週間は他のワクチンを接種しないことを厳守してください。

新型コロナワクチンを先に 2 回済ませてから 14 日後、2 週後の同じ曜日以後にインフルエンザワクチンの接種を開始することをお勧めします。



インフルエンザワクチンは不活化ワクチンですので、基本的に他のどのワクチンとも間隔を開ける必要はありません。

モデルナ社のワクチンは 1 回目と 2 回目の接種間隔が 4 週間なのでインフルエンザワクチンを 1 回目から 2 週間後に接種可能との考えがありますが、インフルエンザワクチンの 2 回接種間隔は 3 週間がベストと考えられているので、コロナ 2 回目接種とインフルエンザ 2 回目接種の間隔が短すぎて現実的ではありません。

10 月以降にインフルエンザワクチンと新型コロナワクチンの接種を行う方は、接種間隔にご注意ください。

あくまでも参考に、新型コロナワクチン接種が遅れている現状で今後はどうなるか？

5 月 14 日、新型コロナワクチンとインフルエンザワクチンは同時接種が可能と、アメリカ疾病対策センター (CDC) が新型コロナワクチンに関する情報をいくつか更新し、その中の 1 つに、同時接種がありました。同時接種とは、あらかじめ混合されていない 2 種類以上のワクチンを、混ぜずにそれぞれ別の注射器で 1 回の受診でまとめて接種することをいいます。

複数のワクチンでの同時接種は欧米では普通に行われてきましたが、新型コロナワクチンに限り、これまで CDC は慎重な姿勢を見せており、「異なるワクチンとの同時接種に関する安全性・有効性の情報が不足している」ことを理由に、「14 日間の間隔を空けるべき」としていました。

また CDC は外傷時の破傷風ワクチンや流行時の麻疹ワクチン接種など「接種による利益が上回る場合」や、長期療養施設でインフルエンザ予防接種を受けた後に新型コロナワクチンの接種機会を得た場合など、「チャンスを逃さないため」には、「短い間隔での接種を検討する余地がある」ともしていましたが方針転換しました。

6 月 14 日に、新型コロナワクチンの開発を進めるノババックス (NASDAQ: NVAX) は、ワクチン候補「NVX-CoV2373」(組換えナノ粒子タンパク質) とインフルエンザワクチン「Sequirus」を同時接種しても有効性が大幅に低下することはないとする研究結果を明らかにしました。(また同社はコロナ・インフルエンザ混合ワクチンの臨床試験段階でもあります。)

これを受けて 6 月末、米ワクチン専門家委員会 (ACIP) はコロナ禍で麻疹や風疹などの基本的なワクチンの接種率が世界中で軒並み下がる中、元の生活に戻ればこうした病気が蔓延するリスクも考慮し、新型コロナワクチンやその他のワクチンはタイミングに関係なく接種を推奨するという見解を示しています。

これらから、日本でも今後、接種間隔が変更になる可能性はあります。

前澤クリニック 内科・小児科 0422-30-2861

天文台通り もみじ山公園バス停裏